面白いことならなんでもやろう。イメージ力、想像力があれば、何でも実現できる

日本やヨーロッパ各地をめぐりパレスチナに広島原爆の火を運んで巡礼するアースキャラバンのドキュメンタリー映画を見る機会があった。聞くと主宰者の喨及さんというお坊さんは第一期の本誌を読んでいたという。また彼が創始したタオ指圧は最初ほびっと村学校でクラスをはじめたそうで、その頃に名前を聞いていたのを思いだした。それからウン十年して初めて出会えたわけだが、もともとはミュージシャンで、念仏修行で悩み苦しみから解放され、同時に指圧や合気道では新しいスタイルを確立。本を何冊もだし、弟子は世界各地にいるという。そこで改めて本拠地の京都タオサンガセンターにお邪魔してアースキャラバンとそこに至る生き様を伺った。（あ）

タオ指圧や気心道を創始し、パレスチナetcに原爆の残り火を運ぶアースキャラバンを提唱・実行しているお坊さん

遠藤 喨及（りょうきゅう）さん

↑2017.5.1 神戸・サラシャンティにてアースキャラバンの映画上映のあと話をする喨及さん。

── アースキャラバンにつながっているプロフィールを教えて下さい。お坊さんでタオ指圧やってることなども。

喨及●海外各地でタオ指圧を教えるようになったのが湾岸戦争のころです。通算12か国ほど行きましたが、イスラエルには10年間、ほぼ毎年ワークショップに行っていました。その間、パレスチナには一度も踏み込んだことがなかったんです。というのはその頃、イスラエル支部を任せていた人間が、僕をパレスチナに行かせてくれなかった。彼はしきりに、“パレスチナ人はテロリストばかりだ”と言っていました。しかし後になってその人自身の人間性に問題があることが発覚したんです。僕は悩んだ末、イスラエルから一切手をひきました。その後、「中東平和教育会議」がパレスチナで開催され、ひょんなことから講師として参加することになったんです。それで初めて、パレスチナに足を踏み入れたんですが、その時の驚きと言ったら、もう、なんていうか、、、。

まず、みんな知的レベルが高くてユーモアもあるし、テロリストだなんてとんでもない。彼らは加害者ではなく被害者だったんです。イスラエル軍の行為は、まるでナチがユダヤ人に対してやったことをコピーしているかのようでした。例えばパレスチナ人を自宅から追い出して、代わりにユダヤ人入植者を住まわせていく。15才のユダヤ教原理主義の少年に銃で武装させ、乗っ取った家を守らせていました。追い出されたパレスチナ人の家族は、家に接近することすら禁じられ、路上生活です。パレスチナ人の村全部をブルドーザーで破壊することもあります。こうしてパレスチナでは土地が毎月、時には毎週、奪われ続けている。その現実の前に立った僕は、一人の人間として、泣くに泣けないほど悔しい思いをしました。同時に、10年間もすぐ近くまで来ていながら、彼らの苦しみを知らなかった自分を、ものすごく恥じました。なにしろ、過去の僕にとってイスラエルは、地中海に面した眺めの良いホテルに泊まり、ワークショップがある日以外は美味しいものを食べ、ビールを飲み、ビーチに寝そべるというリゾート地だったんです。それがパレスチナ人たちの苦しみの上に成り立っていたと気づいた時、彼らに心から申し訳なく思いました。

パレスチナを旅した中の１つに、奪われた土地の返還を求めて、平和的・非暴力デモを毎週金曜日に行っているビリン村がありました。“ビリンでは、イスラエル軍がデモ隊に対して化学兵器を使うから行くのは危険だ”と言う、現地在住の日本人もいました。それを聞いた時は、さすがに僕も”化学兵器かぁ、どうしようかなぁ、、、”なんて悩みましたね。でも自分の人生美学として、皆が人々の自由のために闘っているのに、自分だけ逃げるのではカッコ悪い。“そんな自分では死んでいく時に誇れないなあ”と思って、デモに参加したんです。もちろんイスラエル軍は、催涙弾を撃って来ます。時には、ゴム弾が使われることもあり、当たって怪我をする人もいるし、外国人が逮捕拘留されることもあります。僕が参加した時、デモの先頭集団まで到達したら、イスラエル軍は催涙弾の他に、黄色い液体を噴射していました。あとで聞いたら、かぶると一週間ぐらい酷い臭気が抜けない化学薬品だそうです。日本人が言っていた「化学兵器」は、どうやらそれのことだったようです。（笑）

ビリン村には、海外からの支援者たちも泊まっていました。イスラエル軍が、“石を投げた”と言って、10代の子供たちを夜中に拉致逮捕しに来るからです。外国人がその様子をビデオ撮影していると、イスラエル兵もひるんで帰って行ったりするんです。村の子供たちは、いつイスラエル軍が家のドアを叩いて押し入って来るかわからないから、恐ろしくて眠れないそうです。僕にとってこれらの体験は、一時的なものに過ぎません。でもパレスチナ人にとっては、この苦しみが日常なんです。僕は、少しでも彼らと苦しみを共有したいと思い、イスラエル軍に自宅から追い出され、路上暮らしになった人たちの聞き取り調査をしたり、ボランティア指圧をしていま

次頁に続く

1頁から続く

→エルサレムで四宗教合同のピースウォークを行う

した。

■アースキャラバンのきっかけ■

タオ指圧は世界各地にあるので、国際大会をすることがあるんです。2013年にも、タイのビーチで開催しました。その時、ヨーロッパ・メンバーが”2015年は戦後70年目だから、ヨーロッパ各地の戦争の傷跡を念仏巡礼したい”と言ったんです。僕はそれを聞いて、”だったら「広島→ヨーロッパ→エルサレム」にした方がかっこいいんじゃない”と、つい言ってしまったんですね。でも、誰が日本と中東の巡礼をオルガナイズするのでしょう？　中東に関わりがあり、日本に住んでいる僕しかいないんです、、、。もっともその時は、“2年あるから、まあ何とかなるだろう”なんて、気楽に思っていたんですが。

2014年の夏になって、開催まであと1年しかないことに気づいて、焦りましたね。(笑) やるって言ったけどできなかった、というわけにはいきません。それで、”そろそろ中東に行って準備しなくては”と思っていたら、まさにガザが空爆されようとしているんです。

もっとも、僕が一番心配だったのは、ハマスが打ち出すロケット弾ではありませんでした。イスラエル当局にパレスチナ側に通じている人間だと思われて入国拒否され、アースキャラバン中東が実現できなくなることでした。先の「中東平和教育会議」で行った時の帰りに、パレスチナ側で活動していたことがバレて一時空港で拘束され、荷物から身体から全て調べられ、大変な想いをしましたので。

―― それはいつのことですか？

●2010年くらいでした。その経験があったから、自分の記録が残っていて入国拒否されたらどうしようと、ずいぶん気を揉みました。悩んだ僕は、かつてのイスラエル・タオ指圧のメンバーたちに連絡を取り、テルアビブで7年ぶりにワークショップをすることにしたんです。メンバーは僕が帰って来るのをずっと待っていてくれたそうですが、僕にしてみたらワークショップは隠れ蓑で、真の目的はスムーズなイスラエル入国でした。だから彼らの気持ちを聞いて、なんだか申し訳ないような気持ちになりました。ただ僕は、アースキャラバン中東を実現するために、必死だった。それで出発前に、パレスチナ人の人権を守るイスラエルの平和活動家を検索しては、手当たり次第にコンタクト取っていました。自己紹介してアースキャラバンの構想を説明し、”近くそちらに行くので相談したい”とメールを送り続けたんです。でも、”戦争が始まるこんな時に来るなんてムチャよ。ガザは空爆だし、こっちにもロケット弾が飛んで来るのよ”なんて返信されたりで、アースキャラバンのことはメールではなかなか伝わりませんでしたね。そんなやり取りをしながら、バンコクで数日過ごしていたのですが、とうとう空爆が始まってしまいました。それでテルアビブ行きの飛行機は、次々と欠航になって行ったんです。そんな中、入国拒否が心配で緊張しまくりながらバンコクの空港に行き、トルコ航空にチェックインしようとしたんです。すると、”テルアビブの空港の近くにロケット弾が着弾したから空港は閉鎖で、欠航になりました”と言われてしまったんです！　それでも僕は”ヨルダン行きに振り替えてください。ダメならイスタンブールの空港で、再開まで待ちます”と食い下がったんです。すると呆れたように、”あなたねー、戦争なんですよ”と言われてしまいました。でも僕は、いま行かなければ、絶対にアースキャラバンはできない、という直感がありました。空爆中であろうとなんであろうと、とにかく行かなくてはならない。そう思って必死でした。……その日の夜、再び空港に行った僕を、職員がなぜかトチってチェックインさせたんです。あとで慌てて”やっぱりナシ”って言いにきたものの、すでに出国していたので、イスラエル航空に振り替えで乗せてくれたんです。それは、他の航空会社が皆欠航し、自国に帰れなくなったイスラエル人を乗せるための特別機（推定）でしたから、本当に幸運でした。翌朝、テルアビブに着いて、とうとう入国できたんです。とはいえ、特にあてがあったわけではありません。それでまず、イスラエル人とパレスチナ人が合同でやっているデモに行きました。そこで、アースキャラバンのチラシを見せて、”こういうのをやりたいんだけど一緒にやらない？”と、聞いてまわったんです。”それだったら、こいつと会ったらいいよ”とか、”この集会に行ってみなよ”と言われたら、そこに行き、また人と話す。そういうことを、ひたすら愚直に繰り返しました。そして最終的には、ベツレヘムで大きなフェスティバルを主催しているサミーを紹介されたんです。彼は、ホーリーランド・トラストという、キリスト教系の人権団体のリーダーでした。僕は、アースキャラバンで日本、ヨーロッパを経て来るから、タイアップして一緒にイベントをやらないか、と話したんです。でも最初は拒否されてしまいました。理由を聞くと、”様々な人たちが外国から来て、僕たちはタイアップして来た。でもイベントが終われば、君たちは帰ってしまうし、何も状況は変わらない”、と。それで僕は、”パレスチナが自由になるまで続けるからやろう！”と言ったんです。そうしたら納得して受け入れてくれ、一緒にやることになったんです。

ベツレヘム・フェスティバルは、毎年ラマダン終了後に、四日間にわたって開催されています。僕は彼らに、”フェスティバルの開始を8月6日（広島原爆投下日）に、終了を9日（長崎原爆投下日）にして欲しい”と頼んだんです。そして、”そうしてくれたら、広島原爆の残り火（「平和の火」）を持って行くから、と約束したんです。実はその時点では、原爆の残り火がどこにあるのかも、どうしたら火を持って行けるのかも、わからなかったんです。ただ実現できなかったらハラキリものだし、必ず実現させるという覚悟だけは、はっきりしていました。ところが9.11以降、航空会社は火の扱いについては極めてシビアになっていました。”広島市が申請してもだめだったんだから、とても無理だよ”と、友人になった元広島平和文化センター所長のスティーブ・リーパーにも言われました。でも僕は、いざとなったら上海まで船で運び、陸路でヨーロッパまで行くことも模索していました。それこそ24時間というくらい、ありとあらゆる方法を考え、ありとあらゆる手をつくしました。共産党にまで電話しました。そうしている内に、またしても奇跡が起こったんです。行政書士のメンバーの尽力と、再会したイスラエル・タオ指圧メ

←ビリン村のデモに参加する

ンバーの尽力で、２つの航空会社が OK を出してくれたんです。それで日本からヨーロッパ、さらに中東まで飛行機で運べることになったんです。振り返ってみれば、アースキャラバンが実現する過程では、まるで見知らぬ誰かが海の中に落としたダイヤを拾うような奇跡を、いくつも体験しました。広島のアースキャラバンが実現したのも、その中の１つでした。最初は全くあてがないまま、中東でやったのと同じ手法で原爆ドームの周りをひたすらウロウロしました。広島を歩き回っていろんな人に出会い、夢を語って、いつものように愚直に歩き続けた結果、縁に恵まれて大きなイベントができるようになったんです。またイスラエル軍の空爆で足を失ったパレスチナ人の少年を東エルサレムの病院で見舞い、その夜、僕が作曲したアースキャラバンのテーマ曲「Share!」の詩を書いたんです。そしてこれを世界 18 ヶ国のミュージシャンたちが、異なるアレンジで演奏してくれたＣＤができた。さらに、ドキュメンタリー映画「BE FREE！～原爆の残り火を、パレスチナへ～」が、プロの方々が手弁当でやってくれて完成した。これら一連のすべてが、僕にしてみたら奇跡という以外の言葉では表現できない出来事でした。

■念仏、指圧との出会い■

―― タオ指圧のことも聞かせて下さい。それに気心道というのもやってるそうですね。そしてタオサンガというのもあるんですね？

●タオ指圧、NPO の支援活動、念仏修行などのもろもろを活動する道場を「タオサンガ」と呼んでいるんです。

―― もともとお坊さんになったのはどういう経緯ですか？

●16、17 歳の頃の僕は、精神的にぼろぼろでした。徹底的に自己破壊の生活をしていたんです。家出を延々と繰り返し、高校を２つ中退したのも、自分の存在が耐えられないほど苦しかったからです。そんな僕が、ひょんなことから念仏修行をはじめた。それは、18 歳後半の頃でした。その後、真剣にやったら 20 代の前半に、自分の存在が根こそぎ変わるような、圧倒的な宗教体験があったんです。具体的には、自我が抜け落ち、仏の実在を実感し、身も心も宇宙大霊に溶け入ってしまった体感です、、、、。それによって、自分の今までのすべての苦しみが転化され、日常的に歓喜と幸福感が湧いて来るようになった。僕は自分と同じような苦しみを抱えている人に、人生がリセットされるような体験を味わってもらいたいと思ったんです。いわば、人々が楽しく修行できるような道場を造りたいと思って、僧侶になったのですね。

25 才まで修行していたのは、光明会系の念仏道場でした。“光明主義念仏” は、明治時代に活動した山崎弁栄上人という方が説いた教えです。弁栄上人自身は浄土宗のご僧侶でしたが、超宗派の念仏を説き、仏教各宗の僧侶だけでなく、キリスト教の牧師もお弟子さんになっていました。その後、色々あって 25 歳から約 10 年間は１人で念仏修行していました。でも自分が体験した世界を人々と分かち合いたいという気持ちがどうしても捨てきれなかったので、30 才半ばに得度し、僧侶になったんです。

―― ここに来る時にネットで地図を見たら、この場所は「和田寺」と書いてましたけど、もともとそういうお寺があったわけではないんですか？

●京都タオサンガ道場は、普通の２軒家だったのを、メンバーで１つの道場として改造したものなので、お寺ではありません。和田寺そのものは、島根県にある由緒あるお寺ですが、戦後に雪で倒壊し、今は生活するインフラもないバラックみたいな本堂です。そこを管理しないか、と提案して頂き、今は僕が一応、住職という名目になっています。島根県の和田寺は、村の人たちが大事にして下さっていますので、そのお礼をかねて毎年、メンバーで法要に行っています。ふつうのお寺だったら、村の人がお坊さんを接待するんでしょうけど、僕らは逆です。料理を用意して、村の人たちを接待しているんです。村の人にしてみたら、最初はわけがわからなかったと思いますよ。（笑）でも毎年行って法要を行い、接待し、指圧して上げたりしているので、今ではすごく楽しみにしてくれています。日本に１つぐらいこんな寺があってもいいんじゃないかな、なんて僕は思っていますけど。（笑）

―― 指圧にはどうして出会ったんですか？

●念仏三昧始めたのと同じぐらいの頃だから、やはり 18 歳のときですね。バンドのベースマンが、指圧の本を読んだから、と言って、ちょっとやってくれたんです。そしたら、“こんなに気持ち良いものが世の中にあったんだ!? ”と驚きました。その本をもらって、もう夢中で読みましたね。その頃、僕が住んでいたのは、東京・高円寺にある「清和荘」という変わったアパートでした。ベニヤで区切って作った押入れもない３畳間で、家賃は 6000 円。住んでいるのは風来坊ばかり。まともな仕事をしている人は、僕を含めてあまりいませんでしたね。インドから流れてきた、ヒッピー的な外国人連中もたくさん住んでいました。そこで僕が、指圧をやって上げていたら、”これだったら、ヨーロッパでもアメリカでも稼げるぜ”と言われたんです。根が単純な僕は、”そうかー！ ”とすぐその気になりました。指圧学校もあの頃は学費がまだ全然安かったので、20 才になって入学したんです。当初の予定では、卒業したらすぐにでもインドに行き、陸路でヨーロッパに行き、各地で指圧して、一生海外を放浪して過ごすつもりだったんですよ。音楽も一人でやれるように、バイオリンを練習したり、フランス語やドイツ語も、ちょっと習ったりしながら過ごしていました。25 才になって出発したのですが、帰国するつもりはなかったから、カルカッタまでの片道切符と、祖母が残してくれた 20 万円の遺産だけを持って飛行機に乗ったんです。でも、その４ヶ月後にはマラリアを発症してしまった。帰りの切符もなかったし、お金もなかったから大変だったんですけど、奇跡的に帰れたんです。でも帰国してしばらくは、失意のどん底に落ち込みましたね。（笑）

■無意識に働きかけるタオ指圧■

インドに出発するしばらく前、経絡指圧を確立した増永静人先生の講習に出ていたんです。僕はそこではじめて、指圧と経絡の奥深さ、またその圧倒的な効果を目の当たりにして感動しました。その後も一人で経絡の研究を続けていたんです。

ある日、増永先生の講習会の同級生に、「開業するから手伝いに来てくれないか」、と言われたんです。僕は失意のどん底にいましたから、”もう何でもやるよ”みたいな感じで、日本海側の街に行きました。（笑）そこで毎日、自分が研究していたツボの技法で臨床していたんです。するとある日、ふと経絡が見えるようになっていることに気づきました。突然、東洋医学の「経絡診断」ができるようになっていたんです。

―― 経絡をさわることで、その人の状態がわかるということですか？

→メンバーによるベツレヘム・フェスでの指圧

4頁に続く

3頁から続く

●ぶっちゃけ言うと、観てイメージするだけでわかるから、触らなくていいんです。本当のことを言うと、触覚は、かえって経絡認識を妨げるんですね。診断に基づいた経絡治療をしたら、みんな治っちゃうんで、最初はもうびっくりしましたね。それまで治療はまるで暗中模索の状態でした。 ”増永先生が言ってる経絡診断なんて本当にあるんだろうか？”なんて疑っていたぐらいです。でも、いざ自分が認識できるようになったら、経絡は本当に存在していた。しかも治療としてちゃんと機能することがはっきりとわかった。これは本当に感動しましたね。それで東京に帰ったら、増永先生にすぐに報告しに行こうと思っていたんです。”僕わかるようになりました！”って。しかし残念なことに、僕が経絡診断に開眼した時と、先生が亡くなったのは、ほぼ同時だったんです。だからその後、経絡の診断や治療ができる人がいたら、ぜひ会って話をしたい、と切実に思っていました。でも、どこの誰を見回しても、嘘偽りなく「本当に」やれる人はいなかったんです。だから僕は、増永先生が遺された経絡を、このまま埋もれさせるわけにはいかない、次に渡さなくてはならない、と強く強く思いました。文化の継承者としての自分の責任を、はっきりと感じないわけには行きませんでした。その日から、どうしたら経絡治療を後世の人に残せるのかを研究し、やがて人に教えるようになったんです。

→ピースサイクル 京都→東京 出発式（知恩院前）

―― それがタオ指圧になったわけですか？

●だんだん、タオ指圧になっていくんですね。それは、時代の変化によって患者さんを治療するのに、増永先生が発見された以上の経絡体系が必要になったことが理由です。臨床上の必要に迫られ、新時代の新しい経絡群を体系づけて行ったんです。また指圧技法的にも、合気道の原理を取り入れたりして、大きく変わっていきました。

最初は１冊だけのつもりで本を書いたのですけどね。なにしろ僕は音楽に専念したかったし、、、。でも最初に書いた原稿は、日本ではなかなか出版されなかったんです。日本語で出版されたのは、英・独・仏・伊・西など６か国ぐらいの言語で出版された後だったと思います。１冊目が出たあとは、出版社の方からもお話を頂くようになり、新発見の経絡や技法をアップデートしていくうちに、いつしか８冊になってしまったんです。

―― そういうのって、でも字に書けるものなんですか？

●いや～、ですから、本来ならば言葉にできないことを書くっていうことですね。ここ30年以上、どうしたらみんなが経絡を認識できるようになるかを必死に考え、人々が気や経絡を体感できるような気と心のトレーニング法を作って来たんです。それは、膨大な体系になっています。最初の15年は、仏教修行のことは１つも言わずにタオ指圧を教えていましたから。でも経絡の認識や治療のすべてが、念仏三昧による圧倒的な精神的体験が土台になっていることは否定できないんです。それで現在は、世界のどこの国のタオ指圧クラスでも、必ず念仏三昧の時間があるようになりました。もちろん当初の頃は、”念仏なんてやりたくない、厭だ”と言って、やめていく人もいましたけど。でも今は、皆さん熱心に修行するようになりましたね。

古典的な鍼灸の経絡では、手足に６経ずつしかありません。増永静人先生が体系づけられた全身12経は手に12経、足に12経です。一方、タオ指圧では、ツボや経絡を自らが認識できるようにトレーニングするので、記憶することは勧めていません。なにせタオ指圧には、膨大な経絡群がありますからね。「現実が大事、地図を憶えても意味がない」と言っています。タオ指圧には、副経絡、螺旋状、リング状、超脈、気心脈などの経絡群がありますが、今の時代の臨床では、圧倒的な治療効果をもたらすのです。

海外のワークショップでは、”誰か痛みのある人はいませんか？”と会場で呼びかけ、その場で痛みを取るという治療デモンストレーションを行います。そうして、新しい経絡体系の実在を人々に納得してもらうんです。

―― 経絡の数以外でも、タオ指圧というのはふつうの指圧とはちがうわけですね？

●タオ指圧は、物理的に圧を加えることが目的ではなく、共感によって患者さんの無意識に働きかけることが目的なんです。

―― ふつうの指圧ではここが何経で、こういうツボでと教えますが。

●そもそも、決められた場所にツボありません。実は、古典として残されている経穴は、本当のツボではないのです。こんなことを本に書いていると、嫌がる人や反発する人がいますが、その一方、”自分もずっとそう思っていた”という鍼灸師もいます。ツボや経絡は、その場の治療効果で証明したり、臨床実感で示すのが一番確実ですね。99%の受け手は、必ずわかりますから。経絡の世界は、主観でもないし客観でもないフィールドに存在するんです。日常意識では、“果たしてそんな世界はあるんだろうか？” と思います。でも、それこそが心も身体も、人生も未来も動かしている世界の入り口なんです。経絡って、そういう第三のフィールドに属するものだし、タオ指圧が体系づけたトレーニングによって、誰もが簡単に実感できるようになるんです。

―― 受け手がわかればすぐ納得できるわけですね。

●昔は、何年やっても誰も実感できなかったのですが、今の時代、初日からみんな実感できるようになりますね。教え始めた頃は、僕が言っていることを実感できる人は、誰一人いなかったんです。やがて１人が現れ、２人が現れと増えて行って、ある時から世界中どこへ行っても、みんなが体験できるようになって行ったんです。

―― それは自分が変わったからか、それとも時期が来たということですか？

●わかるようになった人が少しずつ広がることで、世界の無意識に波及して、みんなに影響与えているのだと思います。

―― 100匹目のサルみたいなことですか？

●まあそうですね。あるいは時代が変わって来たのかも知れません。まあ両方だと思いますね。従来にはなかった新しい経絡などを教えると、最初はみんなから反発されました。たとえばイギリスの雑誌に、”ENDOの言う「24経絡」なんてあるわけない”と書かれたこともあります。だけど今は誰も否定しないですね。さらにその先にある「超脈」や「気心脈」など、別次元の経絡も人々に伝わるようになりました。

―― そうやって分かってくると、今度は別の人が教えられるようになるわけですか？

●そうですね。指導員になるにはそうとう我が抜けている必要がありますが、、、。面白いのは、たとえば２日間の体験コースに参加すると、ある程度できるようになるんです。でも、”もう自分はできるぞ”と思って、勉強を続けないと、やがてできなくなるんですね。

―― １度悟りを開いたらいいというのではなく、日々の修行が必要なんですね。

●自分のために利用しようとなると、もうだめですね。

■心が世界を動かしている■

―― ところで気心道というのはどんなものですか？　合気道との違いはどういうところですか？

●合気道は、どちらかというと関節技みたいなところがあります。でも気心道ではツボや経絡を取るだけで相手の身体が動いて、ぱっと倒れるんです。さらに触れずにイメージと気だけで、相手の身体を動かすこともできるようになります。

―― それはさっきのタオ指圧の原理と関係してるんですか？

●そうですね。けっきょくイメージ力というか、共感や想像力がすべてです。そうすると、物質が世界を動かしてるのではなくて、心が世界を動かしてることが、はっきりとわかってくる。その絶対的な確信が無意識レベルにまで浸透すると、タオ指圧も気心道も極めて簡単になります。それにはまず、今までの物質的な世界観が崩れる必要があります。通常は、「物質の中に心がある」という発想になってしまうのです。でも実際は逆なんです。本当は、心が物質を動かしているんです。それが仏教修行の三昧体験で実感する世界なんです。仏教の修行をお勧めするのは、物も人生も動かしているのは心だ、という世界観に立脚することによって、生き方や人生がより豊かで幸福になるからです。

―― それがやっぱりアースキャラバンともつながってるわけでしょうね。

●アースキャラバンの基本にあるのは、”面白いことならなんでもやろう” というコンセプトなんです。イメージ力、想像力があれば何でも実現できる、という。

―― 先ほど、アースキャラバンを実現していく過程で起こった数々の奇跡について聞きましたが、どうせだめだと思っていたら多分だめだったかもしれないですしね。2015 年のヨーロッパや中東でのキャラバンの様子は映画「BE FREE！～原爆の残り火を、パレスチナへ～」で観せてもらいましたけど、そうやって歩いたり自転車で行くというのはどういう意味があるんでしょう？

昔からいろんな人がウォークとかランをやりますよね。だいたい平和がテーマなのが多いと思いますが、そういうのって何か意味とか力があるんでしょうか。

●平和の火（原爆の残り火）を自転車で運ぶことにしたのは、単純に楽しそうだったからです。ただ、肉体を使って何かをやる、というのは自分も人も感動させると思います。オリンピックの聖火にしても、あれ自動車で行ったらあんまり感動ないじゃないですか。やっぱり汗だくで走って行くから盛り上がる（笑）。

―― そうですね。見てても感動というか手を振ったりしたくなりますね。それに走ったりする人自身は汗もかくし疲れるし、修行みたいな意味もあるんでしょうね。

●「ピースサイクル」（平和の火・自転車日本横断）は、もともと巡礼みたいな気持ちでやることで、思いついたことなんです。原爆の残り火ですから、祈りが必要です。

―― パレスチナに行って感じたことは？

●パレスチナに行って、はじめてメディアがいかに真実を伝えないかを知りました。（笑）日本も欧米も、ニュースでは中東の事実を伝えてないことに驚きました。こんな世界に自分は住んでいたのか、と。

―― 今の日本のメディアの状況とか政治状況ってどう思いますか？

●福島のことにしても、メディアは同じで真実は伝えていないでしょうね。政治はもう、日本もイスラエルみたいな軍事国家になっていくんですかね。戦争したらところで、その先はどうするつもりなんでしょう。第二次大戦の時だって、戦後のことをまったく考えないで戦争始めたし。

―― で、それがおかしいなんて言ったら、それこそ共謀罪というか治安維持法でひっぱられて殴り殺されたりとかしたわけで、それを又やろうとしてるようですね。

●人々が、メディアや教育など諸々の洗脳から、抜け出す必要がありますね。目覚めないと、誰かに支配されるんですよね。表面的には、人々がエゴに支配されているように見えるわけですけど、実際は裏の働きによって、エゴに支配されるように仕向けられているんです。だから重要なのは、エゴを乗り越える内的な闘いに勝利して、主観・客観を超えたフィールドに目覚めることです。最終的には、そこなんですね。

―― そういう修行をここ（タオサンガ）ではやってるわけですね。

●それ抜きには、タオ指圧を学ぶことができないですしね。

―― でもそうやって具体的な人の病気を治したりする指圧というのはいいツールですね。

●ありがたいのは、気や経絡、すなわち相手の無意識の状態がわかるようになるトレーニング法が確立していることです。

―― テレパシーみたいなものですか？

●うーん、ちょっと違います。（笑）一回ワークショップに来ていただいた方がいいですね。相手の心の状態がどう気によって体感できるのかを、すぐに実感できますよ。

information

アースキャラバンのサイト
・http://www.earthcaravan.jp/
遠藤喨及個人サイト
・http://endo-ryokyu.com/
タオ指圧・タオ療法のサイト
・http://taoshiatsu.com/
映画「BE FREE!」公式サイト
(2015 年アースキャラバンの 40 日間のドキュメンタリー)
・http://www.earthcaravan.jp/befree/

＊タオ指圧の本や DVD など多数出ているので、上記サイトを御覧ください。